



データベースのバックアップと復元

データにアクセスできなくなるリスクを負わないようにするために、データベースには適正に定義され、十分にテストされたバックアップと復元の計画が必要です。データベースのバックアップとリカバリには、機器の故障時または災害発生時に、データベースのコピーを作成し、必要な場合にコピーしたデータベースを取得するプロセスが関係しています。

この付録では、DCNM-SAN データベースのバックアップと復元の方法を説明します。

DCNM-SAN は、PostgreSQL データベース管理システムをデフォルトのデータベースとして使用します。PostgreSQL データベースは、**pg_dump** コマンドでバックアップされます。**pg_dump** ユーティリティは、PostgreSQL データベースの内容を ASCII ダンプ ファイルにダンプします。バックアップ ダンプ ファイルとは、バックアップ時のデータベースのスナップショットのことです。

データベースは、**pg_restore** ユーティリティを使用して復元します。**pg_restore** ユーティリティは、**psql** を使用して、**pg_dump** により作成されたダンプ ファイルから PostgreSQL データベースを再構築します。



(注)

Oracle Database Server は、Cisco DCNM および SME でサポートされます。Oracle データベースの管理、バックアップ、および復元については、このドキュメントの範囲外です。Oracle データベースのバックアップおよび復元計画の詳細については、お客様の地域の Oracle DBA にお問い合わせください。

pg_dump コマンドの詳細については、次の URL を参照してください。

<http://www.postgresql.org/docs/current/interactive/app-pgdump.html>

この付録は、次の項で構成されています。

- [DCNM-SAN データベースのバックアップ \(D-1 ページ\)](#)
- [DCNM-SAN データベースの復元 \(D-2 ページ\)](#)
- [データベースのバックアップ/復元操作 \(D-2 ページ\)](#)

DCNM-SAN データベースのバックアップ

DCNM-SAN データベースをバックアップするには、次のように PostgreSQL **pg_dump** コマンドを使用します。

```
cd $INSTALLDIR/bin
./pgbackup.sh 02252008.data (on Linux and Solaris operation systems)
pgbackup.bat 02252008.data (on Windows operating system)
```

INSTALLDIR は DCNM-SAN インストールの最上位ディレクトリであり、バックアップ ファイル (02252008.data) は \$INSTALLDIR/bin ディレクトリ内に作成されます。

標準バックアップ ディレクトリ内にバックアップ ファイルを作成するには、ダンプ ファイルのフルパス名を指定します。



(注) すべてのオペレーティング システムで、スクリプトは **pg_dump** コマンドを実行してデータベースをバックアップします。

DCNM-SAN データベースの復元

DCNM-SAN データベースを復元するには、**pg_restore** コマンドを使用します。

```
cd $ INSTALLDIR/bin
./pgrestore.sh 02252008.data (on Linux and Solaris operating systems)
pgrestore.bat 02252008.data (on Windows operating system)
```

バックアップ復元プロセスでは、サーバを停止させる必要があります。



(注) すべてのオペレーティング システムで、スクリプトにより **pg_restore** コマンドを実行してデータベースを復元します。

データベースのバックアップ/復元操作

DCNM-SAN のバックアップおよび復元操作を実行するときは、次の点に注意してください。

- バックアップ コピーに最新のメディア キーがないため、データベースのバックアップ後に作成される新しいメディア キーは、復元操作後に失われます。
- データベースのバックアップ後に作成された新しいテープ バックアップ グループとテープ ボリューム グループがある場合は、DCNM-SAN を開始する前に、`smeserver.properties` でプロパティを `true` に設定する必要があります。これは新しいボリューム グループ キーを KMC に同期します。

```
sme.kmc.sync.model.at.startup=true
```

このプロパティは、テープ ボリューム グループのキー再生成操作にも適用可能です。

- マスター キーがデータベースのバックアップ後にキー再生成された場合、以前のデータベースのデータを復元すると、クラスタは使用できなくなります。マスター キーのキー再生成操作後には、データベースのバックアップを作成し、以前のデータベース バックアップのコピーは破棄します。